

330三里塚突破口に11月へ攻めのぼれ

3/11 第10回支部代 開催される

日刊 動労千葉

86. 3. 13

No. 2190

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七



動労千葉は、三月四日に第二〇回執行委員会を開催し、第二波闘争の総括を行うとともに、最大決戦の「61・11ダイ改」阻止にむけ、いかなる立場で闘いぬくのかについて意志統一し、三月十一日の第十回支部代表者会議で次のとおり伝達した。



動労千葉の闘いの全国化を勝ちとろう

動労千葉は、不当処分粉碎・「61・3ダイ改」阻止、第二波闘争を一カ月をこえる長期間にわたり、非協力・順法闘争の断固たる貫徹、延べ二七六〇名の動員をかちとった線見阻止闘争、様々な妨害弾圧をはね返してうちぬいた2・15スト等、あらゆる戦術を駆使し、一一〇〇名組合員が一丸となって闘いぬいてきた。

この第二波闘争は、千葉、東京を中心に当局の弾圧、動労革マルの妨害、国労中央、地方指導部の屈服と裏切りをのりこえた全国の国鉄労働者の職場・生産点からの具体的決起を随所でかちとり、国労をして「61・3」片仕切りを断念せざるをえない状況を創り出し、当局に「61・3」の一方実施を強制し、国鉄分割・民営化に十万人首切り阻止の闘いを大きく前進させた。

問題は、中曽根・杉浦体制の大変な報復攻撃に屈せず、組織の団結を堅持、強化し、意気軒昂と十一月をむかえることができるかどうかにかかっている。

国労は、三月十七・十八日の中央委員会で、民営化を認めた社会党案採用という形で分割・民営化反対のスローガンをおろそうとしており、動労「本部」革マル・松崎にあつては「世の中が見えてきた」と称し、腐敗した資本主義にのめりこんで生き残ろうとしている。

このような情勢下で、動労千葉の闘いに対する国鉄労働者の期待は一層高まっている。動労千葉の闘いの全国化をかちとり、分割・民営化に十万人首切り阻止へむけ、さらに闘いを強化しなければならない。

当面する取り組み

1. 「61・3ダイ改」強行に対する闘い
「61・3」は、無協約のダイ改となり、運転保安、労働条件等は一切無視され、矛盾が噴出しており、①日常的非協力闘争、②業務移管による乗り入れ乗務員に対する糾弾闘争の大衆的展開と主要駅等への拡大、③問題点を団交で追及する等、反撃の闘いを展開する。

2. 反弾圧・法廷闘争

動労千葉の整然たる闘いの展開により、何等、弾圧の手がかりがえられない政府・国鉄当局は、不当処分を策動する一方「暴力事件」や「業務妨害」のデッチあげを狙っている。

「裁判で負けても、そのとき動労千葉がなければよい」との敵の攻撃意図を粉碎し、不当な弾圧に対しては直ちに職場・生産点から反撃して行く。

3. 広域配転阻止闘争

当局は三月四日「広域異動の実施について」なる提案を行い、北海道から二五〇〇人を東京、名古屋地区へ、九州から九〇〇人を大阪地区へ第一陣として配転させようとしている。これは、労働者同志を争わせ、腐敗・墮落させようとする攻撃であるとともに、分割・民営の既成事実化のエスカレーションであり、団交で事態をはっきりさせ、広域配転阻止を全力で闘う。

4. 家族会の結成

「闘って勝つ」ためには、家族ぐるみの組織強化が不可欠であり、三月十三日の天台地区家族会の結成につづき、未結成支部の早期結成、動労千葉家族会の結成にむけ全力で取り組む。

5. 動労千葉の闘いの拡大

「3・30三里塚」と結合した全国オログ、第一波、第二波闘争の映画の活用、物資販売の取り組みにより、動労千葉の闘いを全国に拡大していく。

6. 「3・30三里塚」全国総決起集会

二〇周年をむかえた三里塚闘争は、正念場をむかえており、第一波、第二波を闘いぬいた動労千葉の三里塚への決起は、労働者人民を鼓舞激励し、二期強行を目標中曽根への痛打となり、何よりも分割・民営化に十万人首切り阻止の闘いの前進を切り拓くものとの観点から、五度目の五割動員を全力で取り組む。

7. その他

三月二二日、十時より、第十四回定期委員会を労働者福祉センターで開催する。